

車籠埔断層中部，草屯地区におけるトレンチ調査

Trenching study at the Tsautun site on the central part of Chelungpu Fault, Taiwan

太田 陽子[1], 草屯断層トレンチ調査グループ 太田陽子

Yoko Ota[1], Excavation research group for Tsautun Fault, Taiwan Yoko Ota

[1] 専修大・文

[1] Fac.Literature, Senshu Univ

台湾中部，草屯地区において1999年に地表地震断層を生じた車籠埔断層のトレンチ調査を行った。実施地点は現河床上約2mの最低位の河成段丘である。約4mの深さのトレンチ調査から、以下のことが明らかになった。1)1999年地震による堆積物の変形様式は、細粒堆積物が厚い南壁では逆断層およびそれに続く撓みが明瞭。細粒堆積物がない北壁では逆断層のみ。約1m地表を短縮させている、2)堆積物は3層に区分され、上下変位量は地表地震断層の変位量と等しい(鉛直変位約1.5m)。トレンチ壁に現れた変位はすべて1999年の地震で説明できる。3)堆積物の14C年代から、一つ前の断層活動は約300~500年前以前に生じたと思われる。

台湾中部，草屯地区において1999年集集地震によって地表地震断層を生じた車籠埔断層のトレンチ調査を行った。実施地点は現河床上約2mの最低位の河成段丘である。約4mの深さのトレンチ調査から、以下のことが明らかになった。1)1999年地震による堆積物の変形様式は、細粒堆積物が厚い南壁では逆断層およびそれに続く撓みが明瞭であるが、細粒堆積物がない北壁では逆断層のみが認められる。また、上盤側が約1m下盤側に覆い被さっており、地表での短縮を示している、2)堆積物は3層に区分されるが、それらの上下変位の量は地表地震断層の変位量とほぼ等しい(鉛直変位量約1.5m)ので、トレンチ壁に現れた変位はすべて1999年の地震で説明できる。3)トレンチ壁に露出する堆積物の最古の14C年代から、1999年地震より一つ前の断層活動は約300~500年前以前に生じたと思われる。(草屯断層トレンチ調査グループ：太田陽子・Huang, C.Y., Yuan, P.B., 杉山雄一・Lim, Y.・渡辺満久・澤祥・柳田誠・佐々木俊作・Tang, H.S.・Shu, Y.T.・Yang, S.U)